

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年8月28日現在

今月の重点活動

■きゅうり 黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会

8月1日に、海津胡瓜部会のキュウリ黄化えそ病対策研修会及び土壌診断説明会が開催された。黄化えそ病対策研修会では、農業経営課技術支援係と病害虫防除所から講師を招き、黄化えそ病の症状、ミナミキイロアザミウマの生態と防除対策等について説明を受けた。また、土壌診断説明会では、農業普及課から、土壌診断結果に基づく適正な施肥について説明した。

抑制栽培の開始

抑制栽培は、8月3日から播種、8月17日から定植が始まっており、農業普及課では、土壌診断結果に基づく適正な施肥、ミナミキイロアザミウマの防除対策等の栽培管理指導を行っている。



【研修会の様子】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー JAにしみのブロッコリー生産協議会の栽培前研修会の開催

JAにしみのブロッコリー生産協議会の栽培前研修会が、大垣部会は7月18日、安八部会は7月30日に開催され、今年産の作付計画及び畝立て・定植予定日について説明があった。農業普及課からは、土壌診断結果に基づく石灰・苦土・カリ資材等の使用方法とともに、定植前のは場準備・畝立てについて説明し、特に湿害防止のため、溝切りの徹底を呼びかけた。

売れる農畜産物づくり

■水稲 適期収穫に向けて

海津市のあきたこまちの収穫は、8月10日～22日に行われ、外観品質は1等、収量は平年並みの見込みであり、9月には早場米として販売される予定である。

コシヒカリの出穂期は、昨年より2～3日早まり、7月末～8月初めがピークとなり、ハツシモは、盆前後が穂肥適期で、出穂期は平年並みの8月末～9月上旬が見込まれる。

農業普及課では、青空教室等において、今年の気象状況や生育の経過を踏まえ、水管理、穂肥、病害虫防除など、今後の適切な栽培管理と適期収穫について支援している。

■トマト 施肥設計個人面談の開催

施肥設計の個人面談を、海津トマト部会（7月24日～26日、8月12日～13日）、池辺園芸トマト組合（8月7日）、輪之内園芸組合トマト部会（8月6日）ごとに開催した。

葉先枯れの軽減対策として、硫酸カリウムの基肥（飽和度8%）施用効果が県農業技術センターの研究により判明したことから、その成果を設計に反映させたが、塩基飽和度が高すぎる生産者も多く、塩基飽和度を低下させることが先決のほ場も多かった。

また、施肥設計に限らず、栽培管理全般についても意見交換をする中で、各生産者の栽培に関する考えや課題に気付かされたこともあり、今後の巡回指導に役立てていきたい。

■だいこん、キャベツ 牧園芸組合だいこん部会、キャベツ部会反省会の開催

安八町の牧園芸組合だいこん部会の反省会が8月3日、キャベツ部会の反省会が7月23日に開催された。

秋冬だいこんは、年末から長く続いた寒さの影響のため生育遅延があり、4月以降に各産地からの出荷が重なり、その後の市場価格が長期に亘り低迷した影響から、最終的な部会の出荷量は前年比119%であったものの、販売額では同73%にとどまった。また、キャベツ部会でも同様に、前年比で、数量は141%であったものの、販売額は72%にとどまった。

農業普及課からは、昨年の生育状況や栽培上の問題点を明確にし、次年度に向けて改善ができるように、栽培指導等を行った。

■春菊、ナバナ 栽培研究会の開催

8月6日に海津春菊部会、8月8日に海津ナバナ部会の栽培研究会が開催され、農薬の安全使用、初期の苗作り及びほ場準備等の栽培指導を行い、平成26年産の生産支援を行った。

春菊部会の研修会においては、昨年からの部会員の要望を受けて、春菊に発生する病害虫についてスライドを用いて説明し、適切な防除が実施されるよう支援した。

■なし 即売会の開催

8月18日の午前中に、大垣市奥の細道むすびの地記念館前広場の朝市にて、大垣市内のなし生産者が幸水の即売を行った。2Lの3個入り袋が500円で販売され、150パックが瞬く間に完売し、商品を追加するほどの盛況ぶりであった。

農業普及課からは、ぎふクリーン農業ロゴ入りの幟、ハッピーを用意し、PR用パンフレットを配布し、ぎふクリーン農業生産登録された大垣市のなしのPRを行った。

■いちじく 第2回ほ場巡回、目揃会の開催

7月31日に、JAにしみの海津いちじく部会の2回目のほ場巡回が行われ、部会員相互に果実の生育状況を確認し合った。出荷時期は早まる見込みで、雨が少ないため疫病等の病気は少ないものの、ダニなど害虫の活動が活発なため、注意喚起を行った。

また、8月9日に、目揃会が開催され、出荷規格を遵守した品質向上について意識統一が図られた。今年は、高温から果皮の着色が進み、糖度も高いが、盆前は愛知産の出荷量が多く、価格が低迷しているため、盆明けから出荷を開始することとなった。

農業普及課からは、株枯病対策として、抵抗性台木の入手先、苗購入資金の支援制度の紹介等を行った。



【目揃会の様子】

戦略的な流通・販売

■朝市直売所出荷者 朝市農産物生産研修会の開催

7月23日に、管内の朝市直売所へ出荷している生産者や関係者を対象に、研修会を開催し、「消費者に信頼される農産物直売所づくり」「農産物の食品表示」「農薬の適正使用」「野菜の栽培」「花の栽培」について説明した。

また、農薬安全使用資料として、毎年作成している「朝市農産物に使われる主な農薬の使用の目安」を各直売所に配布した。

多様な担い手の育成・確保

■指導農業士 視察研修会の開催

8月5日に、指導農業士連絡協議会西南濃支部の視察研修会が開催され、農業普及課から運営について支援した。

伊勢市の大仲バラ園において、パソコン活用による温室内環境制御の取り組みについて視察し、高品質かつ収量アップを両立するバラ生産のポイントについて、経営者から説明を受けた。会員からは、たくさんの質問が出され、熱心な検討が行われた。



【パソコン活用の視察研修】

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 水田の獣害対策支援

昨年獣害対策を支援した大垣市上石津町の水田において、獣害が発生するようになったため、8月2日に、岐阜大学の県寄附講座（鳥獣対策研究部門）派遣職員と共に、センサーカメラ等を使い、侵入箇所を探った。一部電牧柵を張っていない箇所から、猿の侵入が確認されたため、柵の補強方法等について支援した。



【水田周囲の柵の点検】